



## 第 30 回交流会「春の森と植物が恋しくて」

第 30 回交流会 2022 年 4 月 29 日（祝・金） 参加者 6 名



前日「午後から雨の予報、どうしよう。森でお弁当は食べられるかしら。」と心配になりましたが、スタッフの M さんが念のため 13 時からベイシアの三浦市民交流センター（ニナイテ）研修室を予約してくれ、一安心。森に入る前に各々しっかりとカッパ、ポンチョを着込み、リュックもカバーをつけて雨ガード。すでに細かい雨が降ったり止んだりしていましたが、幸い、風はほとんどなく、しっとりとした緑の森を楽しむことができました。

えのきテラスに到着する頃には雨も上がっており、ここで昼食できるかと思ったところ、参加者の T さんから「スマホで雨雲チェックできるんじゃない？」と一言。確認すると、なんと 15 分後には濃い雨雲がやってくるのがわかり、慌てて予定変更。小網代バス停へ向かい、バスで引橋へ。無事ベイシアに到着し。ゆっくりと昼食をとりながら、交流を深めました。



※ 油壺マリンパークが閉館し、三崎口⇄油壺温泉のバス便（京急バス）が減っています。1 時間に 1 便という時間帯もありますので、シーボニア入口や小網代からバスで駅に戻る場合は、事前にバスの時刻を調べることをお勧めします。

記・写真：浪本晴美



フジ

引橋入口の手前から、高い木に絡みついたフジの花が、あっちにもこっちにも美しいシャンデリアとなって、迎えてくれました。遠く、高くに仰ぎ見るフジだけでなく、重くなりすぎて絡みついた木の枝が折れ、落ちた地面から沸き上がるように立ち上がり、辺りに甘い香りを振りまいていたフジも、手で触れそうな近くに垂れているもの。今年はいろんな姿のフジに出会えました。去年はコロナで会えなかったけれど、その間も数を増やし、どんどん大きくなっていったんですね！

かすかな霧のような雨が、森の植物たちをいっそう元気にしてくれているようです。

前にフデリンドウの咲いていたところを少し下った辺りで、「この木は何だろう」と、Nさん。私の知っているはずの木なのです。「ほら、あの、その…」頭を振っても名前ができません。Nさんはいつも写真の記録をきちんと残してくれるので、あとから図鑑で調べたり、記憶を蘇らせるのに大助かりです。むかしむかしの若い頃は1、2度聞けば忘れなかったのにな～。

古い会員のFさんと、「小網代の森を守る会」発足当時の思い出話をしながら歩きます。

Fさんはずっと以前から、小網代の森が大好きで、熱心に応援してきて下さった方です。

「森の中に、所どころでいいんだ、手すりのようなものがあるといいね」

「年をとるとね、ゆっくりとしか歩けない。どこか一ヶ所でいいから、腰かけられるところがあると、助かるんだが」

ごもつともです。私たちスタッフも高齢化し、記憶力は衰え、歩みはゆっくり（ゆっくりなのは30年来変わりませんが…）。自分たちにとっても、切実な事だと感じました。



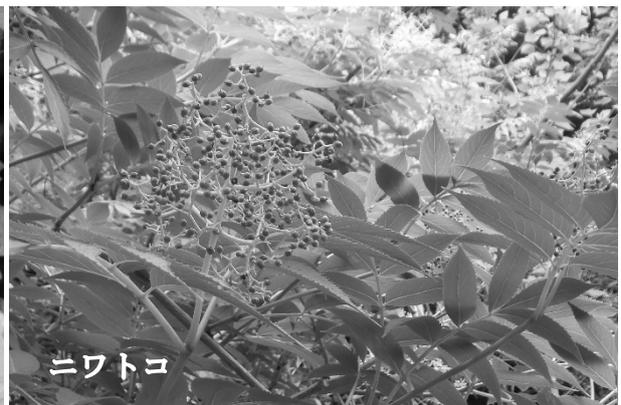
ジャケツイバラ



ジャコウアゲハ



ヤブヘビイチゴ



ニワトコ

記：松原あかね 写真：浪本晴美

ベイシアの駐車場で霧雨が降る中、雨具に着替えて森へとむかいます。「ひげ爺の栖」の店近くの桑の木、花が終わって実が赤くなっています、もう少し黒くなったら、食べ頃となるでしょうね。マルバウツギの花、下にはタツナミソウの白い花々、タンポポ、ケキツネノボタンの黄色い花、森に入る前からワクワクさせてくれます。



水道広場に着くと見晴らしが良くなっていて、森の中にフジの花が「見て私はここよ！」とあっちこっちで主張しています。

階段の途中に、ニワトコが、青い実をたくさん付けているのを見ることができます。

降りきると、ショカツサイの花、そしてシダの新芽がお出迎え。

シダを眺めていたら葉の上にアサヒナカワトンボ(オス)、近くには(メス)が飛んでいました。川をのぞけばオタマジャクシが泳いでいます、カワニナも見えます。

道を進めばヤマツツジの赤色、ヘビイチゴの赤い実を見つけるたびに顔がほころびます。

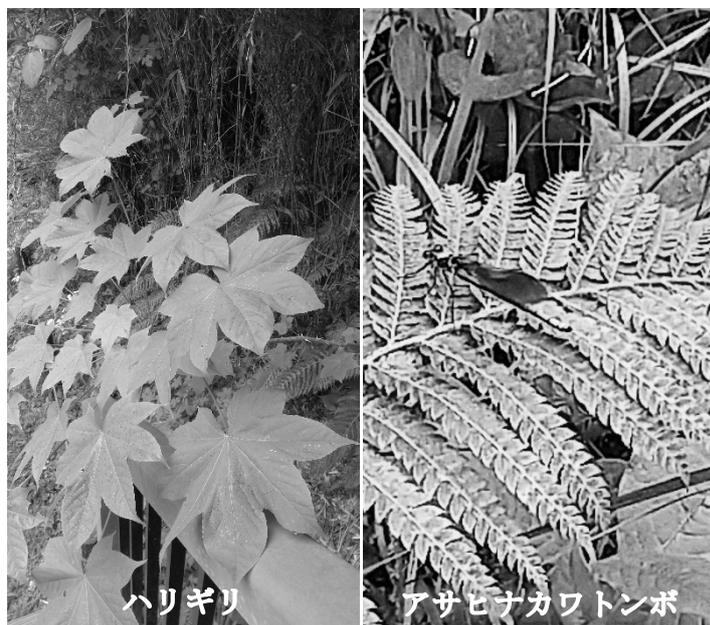
道の脇には、芽生えたばかりの若木がちょこんと葉を広げています。

ヤナギテラスでは、スズメバチの女王達が木をかじって、巣作りの材料集めに夢中になっていました。エノキテラスでは、池沿いに黄色い花が咲き誇っています。後日ビブスを付けたスタッフさんに名前を聞きました、ウマノアシガタと言うそうです。そうそうシオカラトンボに似ている、シオヤトンボにも会えました。このトンボは、この季節に見られるそうです。

霧雨の中でも、鳥の声を聴き、花に誘われたクロアゲハ、モンキアゲハ、ジャコウアゲハ、トンボそしてあざやかな新緑、花々、森は様々な景色を見せてくれました。

ありがとう、また仲間とゆっくりのんびり歩きに森を訪れたいと思います。

記・写真：三本保子



### ●●● ご参加の皆様からコメントをいただきました ●●●

一週間前に下見をしたのですが、一週間の間に随分違っていました。フジは先週の方が盛んでしたけれども、マルバウツギなどが咲き出して、緑も濃くなっていました。また近いうちに訪れてみたいと思います。

(^^♪ H.N

植物を主とした生きものが一番元気な季節、今が一番好きです。ミズキ・フジ・ツツジ、本当にきれいでした。今日はちょっと忙しかったけれど、Fさんから会の設立当初の昔々の国際生態学会のエクスカージョンのお話とかお聞きして、懐かしく思い出しました。それから、私たちが知らなかった、県の内側でいろいろご苦労頂いたことを伺えて、あらためて感謝の気持ちを持ちました。

(^^♪ A.M

一週間ぶりに森に入ったのですが、森が変化していて面白かったです。やはり、訪れないと気が付かないことがありました。いろいろな人と会えて、楽しい時間を過ごしました。ありがとうございました。  
(^\_^)-☆ Y.M

初めて小網代に入ったときの感動がよみがえってきた。30年経った今も、私の気持ちは変わらない。個々の鳥の名前とか、樹木の名前、草花の名前というのは、皆さんには申し訳ないけど、覚える気は全然ない。ただ、トータルに素敵だな、素晴らしいなと感動した記憶がある。その感動は、尾瀬とかいろいろな所に行ったけれど、尾瀬よりもいいね。尾瀬には広大な自然があるけれど、小網代は他にない、関東地域の自然が凝縮されたのがこの地だ。昔は、江戸の町にでも、小網代のような所は何処にでもあったけど、ところが人間さまが開発という名の元に、江戸時代から埋め立て埋め立てで、今の姿になって、唯一残ったのが幸か不幸か小網代だけが残っている。これからも大切に残してほしいと思っている。  
(^\_^)-☆ E.F

昨年の11月以来約半年ぶりの森歩きでした。だいぶ様子が変わっておりましたが、ミズキやフジの花を堪能できました。ありがとうございました。  
(^\_^)-☆ S.T

## ■ スタッフ研修 海岸歩きより

特別展 **洞窟遺跡を掘る** —海蝕洞窟の考古学— (神奈川県立歴史博物館 4月29日～6月26日)

美しい浜や岩礁地帯に恵まれた三浦市の海岸線は、40km以上あるそうです。

市の南東部に位置し、岩礁地帯の始まる雨崎から時計回りに少しずつ歩を進めてまだ2回目、劔崎灯台までたどりついたところです。

例によって、絶景や生き物に足を止めながらゆっくり進むのですが、今回は大浦山洞窟遺跡という海蝕洞窟に出くわしました。大むかしの人々がこの洞窟をどのように利用していたのだろうと、興味津々！ちょうどこのタイミングで、しかもこのタイトル「特別展 洞窟遺跡を掘る」で、しかもしかも、内容がまさにこの大浦山洞窟遺跡や、これから行く間口洞窟遺跡、毘沙門洞窟遺跡が中心であるなんて！これは是非とも、馬車道の県立歴史博物館へ行って見てこようということになりました。面白そうです。皆さまも是非、足を運んでみてください。

特別展ご紹介

「当館が半世紀前に発掘した間口洞窟遺跡をはじめとする三浦半島の洞窟遺跡や周辺の遺跡から出土した資料を通して、そこに生きた人々の姿を紹介するとともに、それを研究する考古学の魅力もお伝えいたします。」(神奈川県立歴史博物館パンフレットより引用)

オンライントーク 5月6日(金) 5月20日(金) 6月10日(金)

オンライン現地ツアー 5月13日(金)

オンラインギャラリートーク 前半5月27日(金) 後半6月3日(金)

\*オンライン配信は **YouTube 「かなチャンTV」** でアーカイブ視聴ができます。

ギャラリートーク 4月30日、5月14日、5月28日、6月11日、6月25日

時 間：13:30～14:15

会 場：神奈川県立歴史博物館 講堂

参加費：無料 13時受付開始、50名先着順 当日の特別展観覧券が必要

観覧料 一般700円 20歳未満学生500円 高校生100円 65歳以上200円(年齢の証明必要)

交 通 みなとみらい線馬車道駅3・5番出口から徒歩1分 地下鉄関内駅9番出口徒歩5分

JR 桜木町駅新南口(ICカード専用)徒歩5分

随想 小網代てんでん ④9

早目が勝ちーニワトコ

須田漢一

春はニワトコから始まる。

他の木たちが眠っているとき、鮮やかな緑が目に入る。葉の中に白くひしめいている、カリフラワーのような花芽も印象的だ。葉の生長と同時にクリーム色の花を開く。

この木は二、六メートルぐらいにしかない低い低木で、庭木にも使われるが、低い山に登ると季節の変わり目が知れて、毎年の楽しみのひとつである。

ニワトコの材はもろく、白い髓が詰まっている。幹もあまり太くならないから、木材としての利用価値はない。花や葉、若い枝と根は薬として利用された。かつては各地に見かけたが、環境の変化で、忘れられた木

となった。

別名接骨木せつこつぼくは節々が骨の関節に似ているから、という如何にも筋が通っている語源だが、京都の方で呼ばれているみやつこの木の転訛らしい。

森や林の縁には低木が茂る。そこに蔓植物が絡み、マント群落を形成する。その下に生きる多年草の裾群落いつもセツトになっている。ニワトコは、こうした所が好きだ。

また夏緑樹林帯の山林は、たえず伐採して明るくしないと田や畑として利用できない。

こうした所は放っておくと、暗く閉ざされていく。しかしその中の植物はあんがい快適な生活を送っているらしい。乾きすぎるところがないので、木々は穏やかに育っている。

地表のコケやシダ、地衣類や腐した樹に生えたキノコや変形菌(粘菌)は、弱い光の

もとで、土壌から立ち昇る高い炭酸ガスで、直射日光を遮られ、低い気温が得られる。むだなエネルギーを使わないで済む。

だから、ヤブであることは森林自体にとつて必要であるし、適度に明るくすることも大事なのだ。そうした半日陰から日陰の縁を好むニワトコは、肥沃な深い土にいち早く根づく。さらに枝の中心が発砲スチロール状に空いている。材料を節約した体の作りで、成長が速い。早く大きくなった方が光を得ることができる。安普請でも、先に建てた方に軍配は上がる。

これは植物だけではなく、他の生き物にも当てはまる。早目が勝ちといえる。



## サロン小網代 遊行寺から江の島へ

2022.5.7 祖父川精治

藤沢市内には、「えのしまみち」と親しまれてきた江の島弁財天の道標が10ヶ所も現存し、市指定文化財となっている。火成岩製でほぼ同じ尖頭角柱で、1600年代に信仰篤い目の不自由な杉山検校が寄進したものと伝わっている。江の島詣では、丹沢大山参りと結んで江戸時代の手軽な江戸住民たちの小旅行だったのである。

杉山検校の、作り直され新しくなった銅像が江の島神社に現存する。

東海道藤沢宿にある、名刹の時宗総本山遊行寺へ参詣して江の島へ向かうことにする。遊行寺横の長い坂道は国道1号で、正月お馴染みの関東大学駅伝では難路として有名である。

藤沢駅北口から、遊行寺通りと親しまれた道を北上し、石塔が並ぶ庚申堂の先に「えのしまみち」と刻まれた道標を確認する。朱塗りの遊行寺橋の際に資料記念館がある。昔は、大いに賑わいを見せていた全国三大広小路の一つであったと紹介している。

黒門を通り石畳の坂道を登ると、時宗総本山藤沢山無量光院清浄光寺、通称遊行寺である。始めて遷都され京都から東京へ向かった、若き日の明治天皇も宿泊されている。

遊行上人から各参拝者に手渡す、賦算の木版札「南無阿弥陀仏」のお札配りが今も続いている。東門脇にある大正15年国指定史跡、応永23年「1416」敵味方区別なく弔った怨親平等の碑石「敵味方供養塔」が貴重である。他に、浄瑠璃で有名な小栗判官と照手姫縁の小栗堂が寺奥にある。

6月には、本坊書院回廊に囲まれた奥庭の花菖蒲田を開放している。静かに鑑賞させて頂くことにする。

旧江の島道は、交通の激しい車道へと変わっているので、湘南海岸へ流れ込む境川沿いの遊歩道を歩くことにする。武蔵国と相模国を分ける境川、水源は東京都町田市の高地点の草戸山「365メートル」である。汽水域なのに、魚の飛び跳ねる音に水面が大きくゆれている。土地の人の話では、干満の水位水面の差が1メートル位はあるよとっていた。

新川名橋では、境川最大の支流である柏尾川が合流する。

奥田橋の先、左側の山林は市街地では珍しい広大な自然林に囲まれた森林公園。江戸時代の古民家が移築保存されている。最高点は67メートル。

湘南の瀟洒な住宅が立ち並ぶ中を、緩やかに蛇行して流れ个性化的な橋が幾つも架かっている。江ノ電鉄橋の下を通り、川沿いに大きく廻り込んで進んで行く。

前方の丘の上に、白亜の滝口寺仏舎利塔を望むことができる。県内唯一の五重塔や鎌倉時代の刑場跡。中国元の国使を弔った供養塔がある。

竜宮城風の小田急片瀬江の島駅、大勢の観光客でいつも賑わっている。最近の情報では、小田急は新宿と江の島間の直通運転を止めて、全て藤沢駅で折り返しとなるという。運転手と車掌が先頭車両と後尾車両を前後入れ替え交代するのが大変なのである。それに話題として、子供運賃をどこまで乗っても全て50円にするという。私鉄では初めての取り組みである。

北斎の富士三十六景や広重の相州江の島図を見ると、干潮で砂州が現れた時に裸足になり徒歩で江の島に渡っている。後に危うい木造の仮橋となり、渡し賃は2銭だったという。現在は車道の江の島大橋と歩行者専用の江の島弁財天橋を利用する。

江の島の最高点は60メートルで、エスカレーターもある。大勢の参詣者たちで賑わう、参道の石段道を登り、下りて江の島神社の辺津宮、中津宮、奥津宮、更に南面の危うい断崖を下り洞窟巡り「有料」が楽しめる。



4月23日土曜日の午後、友人と二人、29日の交流会の下見のために森へ。

全山、薄緑色に笑い顔、  
全山、フジの花に覆われて、  
全山、命の芽吹き香りさせ

肉離れの左足のためにストックをついて、ゆっくり森をくんだり、ヤナギテラスで大休止。

テラスを巡るジャヤナギを何となしに見ているとブーンと2匹の飛ぶ生き物が幹に止まる。じっとしているように見えるが少しずつ動く。よく見ると頭が黄色、胴が親指のように大きい。

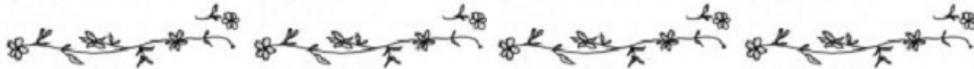
もう一匹は先に占拠された一匹に追い払われたような音がする。4月の末のこの時期、じっとジャヤナギの幹にいる。大きさからいってオオスズメバチか？近づいて写真を撮る。この時期、木の皮をかじって巣づくりをしようとしているのではなかろうかと推測する。後で、調べた方に教えて貰うことにする。



オオスズメバチ

同行者は広々と気持ちの良い森に囲まれて大変なご満悦！

誘った筆者は却って自分が助かっていることを自覚！



杖ついて 歩く小網代 30余 変わる自然と 競う気楽し

山笑い ほっと火のごと 山ツツジ 探す我が目に 飛び込む蕾

やまふじの 山を作りて 森すそに ふじいろ波が おし寄せてくる

遠うふじの かおりたちたる 花園に 笑ってすわる 人をカメラに

女王の 名のつくハチは ジャヤナギの 幹に止まりて 葉材を囓むか

美織



タツナミソウ

タツナミソウは花が咲いた後、萼が変化して唇弁をつくる。これに雨が当たると大きく揺れ、唇弁の下にある種を飛ばす。雨による種子散布とされる。ネコノメソウやマツバボタンがその仲間

参考 「花からたねへ」 小林正明著

## 小網代を詩う

小網代の使者

中井 由実

JR阿佐ヶ谷駅近く

商店が並ぶ通りに

大きなカラスアゲハが飛んでいた

小網代であれば

春の野花が咲き競う高さ

でも この都心には花など無い

配送車が走る

親子連れの自転車が通る

誰も避けてはくれない

危ない、高く舞い上がらなければ・・・

小網代に行きたい私の心が

行けなくて寂しい気持ち

この蝶を

森からワープさせてしまったのだろうか

私がこの通りを歩き抜けければ

アゲハは森に戻るのかもしれない

私と一緒に連れて行ってほしいけれど



挿し絵：「こあじろ浪裏」伸

立浪草

中井 由実

タツナミソウという春の花がある

垂直に伸びる茎の一方向に花びらを開く

群れて咲くその様子が

風に吹かれた波頭のような

私の好きな青紫色の花群を

小網代の小路でよく見かける

強風にあおられた白波のような

シロバナタツナミソウが

小網代では

海から離れた谷の中ほどで咲く

見つけるたびに不思議に思うものだ

## 今日の小網代

4月24日(日)

スタッフ4名で交流会の下見。  
フジの香りの漂う、新緑の森。  
真ん中湿地をとおりすぎたあたりで、あたり一面紫。  
枝が落ちて、フジが地を這う。  
甘い香りが谷に充満。幸せ～！  
29日まで残っていますように。

交流会で北尾根を利用するかも、  
と北尾根の下見をしながら帰る。  
ナラ枯れの木がずいぶん伐採されていた。  
H.N

5月11日(水)

急に思い立ち、午後から森を歩いた。  
29日交流会の時より緑が一段と濃くなり、  
虫たちの姿も多くなった。

前回注目していた黄色いマメ科の花は  
やはりジャケツイバラ。久しぶりの登場。

これから団体さんが来るという情報を得、  
谷はさっと通りぬけ、干潟でゆっくり。  
チゴガニダンスもじっくり楽しむ。

北尾根はノイバラ、スイカズラ、ハコネウツギ満開。  
サルトリイバラにルリタテハの幼虫も確認。  
ヒメクロオトシブミ、コフキゾウムシは恋の季節。  
ミツバアケビのちっちゃい実が揺れる。  
北尾根って楽しい。  
H.N

5月20日(水)

18日森に入ったら引橋入り口は倒木で通行止めでした。  
北尾根回りではヤナギテラスまで行けました。  
N.T



## こあじろの森くらぶオリジナルカレンダー2023の画像を募集します

こあじろの森くらぶオリジナルカレンダーの2023年版をみんなで作りたと思います。カレンダーに載せる写真を募集しています。応募された方には参加賞として、2023年版カレンダー（1部/人）をプレゼントします。ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

### 募集要項

応募資格：こあじろの森くらぶ会員とそのご家族、ご友人の方

応募受付期間：2022年7月1日から2022年9月30日まで

応募作品：2021年10月から2022年9月までに小網代の森で撮影した写真で、他に発表されていない作品（季節感のある写真が採用されやすいです）  
横長の写真で500KB以上のデジタルデータ（可能であればJPG）

応募方法：info@mori-club.comに、申し込みメールをお送りください。メールタイトルを「カレンダー申し込み」とし、メール本文に、お名前・ご住所を明記してください。こちらからご案内メールを返信させていただきます。

選考：2022年10月にリモートで選考会

発表：2022年11月下旬発行のこあじろの森くらぶ通信に掲載

お問合せ：info@mori-club.com（写真受付担当）

## 小網代の森NEWS

### スタッフの活動

2022.03.13（日） 第29回交流会 鳥いっばいの谷と海 2022 コロナまん防措置期間のため中止

2022.03.20（日） 通信No.30印刷（横須賀市立 市民活動サポートセンター）

2022.03.26（土） 編集会議09（リモート）

2022.04.02（土） スタッフ研修 光の丘水辺公園・かろうと山古墳探検  
編集会議10（リモート）

2022.04.10（日） スタッフ研修 海岸歩き  
編集会議11（リモート）

2022.04.16（土） 編集会議12（リモート）

2022.04.23（土） 第30回交流会下見  
編集会議13（リモート）

2022.04.24（日） 第30回交流会下見  
スタッフ会議（リモート）

2022.04.29（金） 第30回交流会・午後スタッフ会議（於 ニナイテ会議室）

スタッフ会議・編集会議 14

- 2022.05.07 (土) 編集会議 15 (リモート)
- 2022.05.09 (月) 第 31 回交流会お知らせハガキ発送
- 2022.05.18 (水) 編集会議 16 (リモート)
- 2022.05.22 (日) 「光照寺ご住職のお話を聴く会」冊子、印刷・製本  
(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2022.05.28 (土) 第 31 回交流会下見

### ●●● ご寄付ありがとうございます ●●●

俵 国芳さま 浪本晴美さま 三本保子さま 宮本美織さま 望月光子さま  
以上の皆さまにご寄付をいただきました。大切に使用させていただきます。

### ●●● 会員更新のお知らせとお願い ●●●

今年も会員更新の時期がやってまいりました。数年ぶりにコロナの規制が取り払われて、清々した気分のこあじろの森くらぶスタッフ一同、今後の交流会の企画にも力を入れてまいります。会員の皆さまとご一緒に心ゆくまで森の空気を堪能したいと思います。

今日まで、森を見守ってくださった皆さまに、是非会員の継続をお願いいたします。本通信に振込み票を同封させていただきました。

年会費 1,000 円 (7 月～6 月 入会金不要)

郵便振替 記号番号 00290-6-137203

加入者名 こあじろの森くらぶ

\*恐れ入りますが、払込み料金をご負担ください

昨年までとは払込み料金が変わっています。3 万円以下の払込みでは 152 円 (通帳・カードを使用して払込み)。現金で払い込む場合は 262 円と変更になっていますのでご注意ください。

### ●●● 第 31 回交流会のお知らせ 「ホテルを見にいこう！ 2022」 ●●●

2022 年 6 月 4 日 (土) 16:00 三崎口駅前集合

\*雨天中止について 中止の場合は 5 日に順延

当日の天候は神奈川県判断によります。15 時時点で、雷または大雨等の注意報以上が発令されている場合や、降雨が予想される場合は夜間開放が中止となります。中止の場合は神奈川県ホームページでお知らせがあるそうですので、お出かけ前にご確認ください。

神奈川県ホームページ : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/d2t/kankyo/koajirohotaru.html>

谷を下り、えのきテラスで休憩後、ホテルを観察しながら谷を上って帰る予定です。懐中電灯、軽食のご用意を。保険はありませんので自己責任でご参加お願いします。当日はサプライズの企画を楽しみながら、暗くなるのを待ちたいと思います。暗くなるにつれ、ポツリ、ポツリと光り始めるホテル。待つのも楽しみの一つです。

### ●●● 光の丘水辺公園ハンゲショウ群生地公開のお知らせ ●●●

光の丘水辺公園から今年もハンゲショウ群生地公開のお知らせが届いています。ぜひお出かけください。

期間：6月25日（土）～7月3日（日）

規制区域開放時間：午前10時から午後3時まで

光の丘水辺公園 HP：<https://www.ryokukazouen.jp/mizube/>

水辺公園管理事務所電話／FAX：046-849-7650

### ●●● 「光照寺ご住職のお話を聴く会 記録」冊子、同梱のお知らせ ●●●

前号でお知らせした冊子、「小網代の歴史を訪ねてみようⅡ 第28回交流会（2021年12月4日）光照寺ご住職のお話を聴く会」の記録ができあがりしましたので、通信と一緒にお届けします。録音・テープ起こし・内容の確認のための調査活動や聞き取り、ご住職にも何度も足を運び、ご協力を頂きました。時々の脱線もありましたが、毎週のリモート編集会議で、少しずつ出来上がって行く喜びは何物にも代えがたいものでした。皆様に分りやすくお伝えできるようにできていると自負しております。

印刷製本はスタッフ8名と会員で行いました。製本道具を持参して協力して下さった会員さんを中心にうまく分担して作業は進みました。150部、出来上がった時は「今度から製本のバイトができるね。」こんな会話も聞かれました。お知り合いの皆さんにもご紹介いただけましたら幸いです。

追悼 「小網代の歴史を訪ねてみようⅠ」で大変お世話になりました出口喜八郎様は2021年12月に天寿を全うされました。謹んでご冥福をお祈りします。

小網代の森へのお出かけは、神奈川県ホームページを確認してから、が安心です。  
神奈川県ホームページ URL <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/d2t/kankyo/p820028.html>

### こあじろの森くらぶ通信 No.31

2022年5月29日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田1528-75

連絡先：info@mori-club.com（高橋）

046-889-0067（仲澤）

URL：<http://www.mori-club.com>

年会費：1000円（7月～6月 入会金不要）

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203